

令和6年度第4回乙訓地区小中学校使用教科用図書採択協議会 概要

日時：令和6年6月27日（木）

午後1時29分から同4時59分まで

場所：大山崎町立中央公民館別館3階 大研修室

1 開会・挨拶

南会長（大山崎町教育委員会教育長）

2 出席者

(1) 協議会委員（欠席者）

- | | | | | | |
|--------|----|--------|-----|---------|-----|
| ○ 南顕融 | 会長 | ○ 山本真也 | 副会長 | ○ 西村文則 | 副会長 |
| ○ 松本克彦 | 委員 | ○ 流石智子 | 委員 | ○ 中野緑 | 委員 |
| ○ 畠山亮 | 委員 | ○ 福澤秀夫 | 委員 | ○ 京樂真帆子 | 委員 |
| ○ 大下和徹 | 委員 | ○ 盛永俊弘 | 委員 | ○ 吉川栄一 | 委員 |
| ○ 宮本佳子 | 委員 | ○ 湊田瑞希 | 委員 | ○ 堀田守人 | 委員 |
| ○ 野田昌之 | 委員 | ○ 密谷由紀 | 委員 | | |

(2) 研究員

代表研究員及び市町（総括）指導主事20名

(3) 各市町教育委員会等事務局

向日市 1名

紺野学校教育課長

長岡京市 1名

渡邊学校教育課主幹兼学校教育係長

大山崎町 4名

浅田教育次長、吉田学校教育課長、江畑学校教育課主任、

浅野学校教育課主任

オブザーバー

京都府乙訓教育局 渡邊企画教育課長

3 会長の選出について

(1) 会長の選出

大山崎町の馬場教育長が任期満了により退任したことをうけ、後任の南教育長が会長に選出され、承認。

4 議題 調査研究の中間報告

代表研究員から、調査研究の中間報告を行った。

(以下、質疑応答及び意見。質疑を「○」、応答を「→」、意見を「◎」で表す。)

① 国語

【国語】

- 前回と違って二次元コードが大幅に増えているが、印象に残っていることはあるか。
- 発行者によって、一覧形式や場所を案内する形で掲載しているが、どの発行者も多く掲載されている。

- 光村図書出版の語彙ブックについて、どのように活用できそうか、効果的な部分は何か。
- 語彙ブックは、その年代にふさわしい語彙、及び使う場面を整理している。中学生或いはその学年相当に使ってほしい、表現してほしい内容が整理されていると考えている。

- 題材として取り上げられている文章について、研究員の印象はどうか。
- 文学教材を中心に定番となっている教材が多く掲載されている。説明文を中心に、時代に応じて変わってきていると考えられる。国語の教材は、教材の中身を教えるのではなく、説明文を読む力をつけていくことが目的なので、興味付けという点では、発行者の工夫として知名度のある文章が使われている。

- 個別最適な学びに関する報告書の内容について、中教審の見解と解釈が異なるように思うがいかがか。
- 研究員で議論し、引き続き教科書の理解に努めたいと課題意識を持っている。

- 乙訓の生徒が苦手な分野について、丁寧な説明や課題に対する指導ができるという視点で研究いただき、次の機会に説明いただきたい。
- 研究していく。

【書写】

- 国語と書写の発行者は、同じである必要はあるか。
- 必要はないと考える。書写の課題に国語の教科書から引用している用語や作品があり、関連付けはできるが、同じでないと指導できないということではない。

② 社会

【地理】

- 社会科は、分野により教科書が異なる。分野横断的に考えると、同じ発行者で揃えると指導しやすいと考えるが、地理的分野の共通性と社会科科目全体の共通性という点で、どのように考えているか。
- 分野横断的な面では、過去はすべての教科書が同じ発行者であったわけではな

いので、必ずそうでなければならないということはない。

【歴史】

- 学校現場では人権教育をベースにあらゆる教育活動が進められている。全ての教科において、人権教育の視点から調査研究をしているのか。社会、歴史においてはどうか。
- 各分野とも人権的な視点で、掲載内容や使われている資料、歴史的な背景について調査している。

【公民】

- ◎ SDGS については、興味関心を持って学んでいかなければならないと考えるが、分かりやすかったのは日本文教出版と帝国書院だと思う。
- ◎ 帝国書院は国際という章があったり、大阪万博の話が載っていたり、身近なところでの話題提供があると思う。
- ◎ 日本文教出版は、年金の仕組みや社会保障のあり方について、図やフローチャートを用いて丁寧に分かりやすく掲載されている。

【地図】

- ◎ 地理的分野の教科書と地図との関連では、帝国書院の地理の教科書は地図にリンクしている箇所があるので、そういった部分は同じ発行者の方が使いやすいといえる。

③ 数学

- 数研出版はリレーバトンの問題が掲載されているが、数学的にこの問題設定はどうか。
- 基本的に中学校の数学は、自然現象と完全に合致することが難しく、前提条件を設定しないと規則的にはならないことがある。
- 教育出版は、重要な部分が空白で括弧になっており、数学が学びやすい工夫がされている。
- 紙ベースで学びを進めるための手立てをしている発行者だと考える。
- 二次元コードがあるほうがいいのか、それとも紙ベースのほうがいいのか。
- 二次元コードはネットワーク環境に左右されるところがある。しかし、画像の説得力はあるので、だからこそ二次元コードを用いて画像が閲覧できるようになっている。また、問題の幅を広げたり数を増やしたり、個に応じた学び方ができるようになっている。

- 二次元コードを確認すると練習問題が多いと感じており、帰宅後の自主勉強で活用するケースが多いと考えられる。一方で、例えば立体図形が動画で動いていくなど、考え方を深めるための工夫について各発行者間の差はあるのか。
- 差は若干あるかと思う。東京書籍は、以前から図形を動かしたり切断面を少しずつ表示させたりしていた。途中でヒントを与えながら答えを表示するような二次元コードの使い方をしている。問題量の充実は数研出版や啓林館が挙げられ、二次元コードからたくさんの問題に取り組めるようになっている。その他については、アニメーションやシミュレーションを使って変化を考えるような使い方をしている。

④ 理科

- 二次元コードを使い可視化されることは、今の生徒たちの興味を引くと考えがどうか。
- この間変わってきたことは、補充資料のようにカラーでリアリティのある教材が増え、その結果、資料集の必要性が薄れた。どの発行者も甲乙つけ難く、また有用性があると考え。ただし、どこかの発行者が抜きこんでいるようなことはないと考えている。指導者が生徒を指導する際、二次元コードを使うと指導しやすいだろうと考える。

⑤ 音楽

- 教育芸術社は、音符を並べると実際に音を聞くことができる機能があるが、他の発行者はどうか。また、コンテンツ数の違いはどうか。
- 教育芸術社は、音符を並べて再生ボタンを押すと、音楽を再生する創作ツールがある。教育出版社は、ワークシートに手書きし自分で引いて確かめる仕組みがある。コンテンツは、すべてを授業で扱うわけではないので、コンテンツの数が全てではない。ただし、授業では扱わなくても、楽器の再生ができるので、生徒の興味関心に応じて学びを進めていくことができると考える。

- 思考判断表現は大切だと考える。各発行者の特徴はどうか。
- 考えるヒントが明確になっているなど、どの発行者も同じような程度で示されていると考える。ヒントが吹き出しや注釈で掲載されており、生徒がそれらを読みながら学びを進めていくことができる。生徒同士による会話の中で学びを深めていく部分と、発表という形で行う部分が分かれているので、教師の指導の下に展開できる教科書になっていると考える。

⑥ 美術

- 開隆堂出版と日本文教出版は「構想の方法」、光村図書出版は「構想のきっかけ」と表現しているが、具体的にどのような違いがあるのか。
- 教科書の内容が、生徒の発想にどう影響するかという部分だと考える。丁寧だと、生徒はそれを見本としてそのまま写す可能性がある。しかし、少し減らし

ておくことによって発想の幅を広げる可能性がある。光村図書出版は、そういった余地が残されていると考えている。

また、指導者の経験によっても変わると考えられ、指導者の参考になるくらい作りこんでいる教科書だと、経験の少ない指導者は使いやすい。しかし、経験のある指導者にとってはすべて見せるのではなく、部分的に隠れていることが生徒に発想させるような使い方もできると考えている。

- 丁寧すぎることで生徒の発想を邪魔するのではないかと述べていたが、どのように調査したのか。
- 光村図書出版の別冊「資料」は、技法等が分かりやすく一冊にまとめられており使いやすくしている。芸術家の作品はとても完成された作品である。生徒が発想を広げる際、雲の上の作品を見て感性を磨くことはあるが、生徒作品が掲載されている場合は生徒自身の身近な作品を見てヒントにすることがあり、こういった箇所は各発行者で違いがある。

⑦ 保健体育

- 主体的な学びについて、授業を担当している研究員が活用しやすいと考えている箇所の内容は。
- 単元ごとに、生徒にどのような力を付けさせたいかというめあてがあり、学習課題につながる投げかけがあって、生徒が意欲的・主体的に課題に取り組むとともに、学んだ知識をどのように活用できるのか、そういった方向性ができている教材が学びやすいと考えている。

- 前回の選定理由では、AED の実習が挙げられていた。保健体育の指導者が AED の実習というテーマで教科書を比べた場合、どのように考えられるか。
- 東京書籍は、巻末に動画集という形式で掲載している。二次元コードを読み取ることで、動画を始め学習に関連する人物のインタビューなどを視聴することができ、非常に充実している。

- D マークコンテンツは、東京書籍のオリジナルなのか、それとも共通した仕組みなのか。
- 詳しく調べられていないが、東京書籍は自社で動画を作成していると考えられる。他の発行者については、例えば東京消防庁の動画にリンクを貼って視聴できるようにしているなど、自社ではない動画へのリンクがあるように見受けられる。

- D マークコンテンツは、オリジナルで作成しておりすごくわかりやすい、発行者の特色と考えてよいか。
- そのとおり。

- 巻末スキルブックや豊富な写真掲載、実習ページの配置など、発行者によって確実に技能が習得できるように工夫されている。指導者が授業に活用しやすいように構成されている発行者はどれか。
- 各発行者とも検定に合格しており、甲乙つけ難い。東京書籍は動画コンテンツをまとめており、シンプルで授業の流れが作りやすい。

- 防災教育は、文部科学省の資料でも取り上げられているが、発行者による差異はどうか。
- 各発行者とも取り扱っているが、Gakken は避難の方法など様々な資料を掲載しており、充実した内容であると考えている。

- 体育と保健があるが、学年によって学習する分野が決まっているのか、それとも指導者によって異なるのか。
- 学習指導要領で保健分野と体育分野に分かれており、各学年とも両方の分野を学習する。

- 学習する順番はそれぞれの学校で決めているのか。
- 学習する範囲は決まっているが、学習する時期は各学校で検討し決めている。

⑧ 技術・家庭

- 各発行者の特徴はどうか。
- 東京書籍と開隆堂出版は、共に授業で活用できる資料や情報が豊富に用意されている。
教育図書は大きなイラストや写真が多く掲載されており、生徒にはわかりやすいように感じる。一方で、情報は精選されている。

- 家庭分野における男女の問題や差別の問題について、各発行者の特徴はどうか。
- どの教科書も男女の活動などを限定することなく、取り扱っている印象である。

- デジタルコンテンツは数ではなく、質も問われる時代になっていると感じる。自前のコンテンツを丁寧に作っている印象を受けたか。
- 効果的なものが用意されており二次元コードから簡単に視聴できるようになっていると感じている。

⑨ 外国語（英語）

- 教科書が教えるという言葉は印象的だった。逆に授業で補えない部分であるとか、今後求められてくる観点からみた特徴はどういったところか。
- 対話的であるとか協働的な学びの部分は、デジタルで対応するのが難しい部分だと考える。英語はコミュニケーションが最重要視される教科なので、教科書を使用して対話的・協働的な学びを進めるには指導者の工夫が必要である。し

かし教科書もよく考えられており、本文中にそれらが織り込まれているので、差異はないというのが回答である。

- 三省堂は英和辞典が付属しているが、今は様々なツールがあり生徒はそれらに慣れている。指導者が教える中で良いと感じる部分はどこか。
- 学校現場では辞書の活用は低くなっているものの、発行者も懸念があるのか、必ず辞書の使い方が掲載されている。授業で辞書を引いてみるといった取り組みを行う可能性が高いと考える。

- ◎ どの発行者の教科書もレベルアップしていると聞いているが、今の生徒にとってどの教科書が適しているのかについても次回聞かせていただきたい。

- 英語の歌については、そもそも紹介していなかったり、紹介していても全学年でなかったりと差がある。歌の紹介があったほうが良いと考えるが、指導にあたってどうか。
- 歌が必要という指導者もいれば、歌は意味がないという指導者もあり、賛否両論がある。

- 小学校から中学校に進学するときの学習のギャップが少ない教科書は。
- 乙訓の小学校では、ワンワールドを採択していると聞いている。中学校では学び直しから始まるので、小学校でどの教科書を使っても構わないと考えている。

⑩ 道徳

- どの発行者もいじめの問題を取り上げている。物語を通して「間違っているよね」という結論だけでなく、「どのようにしたらいいのか」まで考えていく必要があると考えるが、教科書の研究を進める中でどのように考えているか。
- いじめを直接的あるいは間接的に扱う教材が、教科書に掲載されている。生徒たちは、当然いじめがいけないことを分かっているが、自分自身だけの考えだけでなく他者の考えを聞きながら自分のことのように考える、こういった教材が多く取り上げられているのが最近の教科書だと思っている。いじめの問題は重大であることから、各発行者の教科書には十分な量の教材が掲載されていると考えている。

- 現在使用している日本文教出版の教科書は、別冊の道徳ノートが付いているところがポイントとなっている。今後も必要という意見であれば、教科書が絞られてしまうが、他の発行者の教科書であっても同様の取り組みができるなど、他の手段はあるのか。
- 他社との差別化を図る中でアップデートし続けており、指導者側の要望やイメージと照らし合わせると、頭一つ抜けているという印象はある。動画コンテンツや手書きの良さ、デジタルの効率化など、パワーアップしていることを感じ

ている。

- いじめ問題が注目されるなか、道徳教育が有効・効果的に役割を果たしているのかという問題意識があると仮定した場合、今までのいじめ指導の延長ではなく少し違った視点が盛り込まれている発行者はあるのか。
- 従来と大きな違いは見当たらなかったが、いじめ問題に対する生徒指導的な考え方と人権教育では、位置づけが異なると考えている。

- 自己肯定感が上がるような道筋になっている教科書はあるのか。
- 自己肯定感も含めて、最終的に自己の生き方について考えるのが、道徳の時間だと考えている。それぞれの教科書には振り返りの文言があり、最終的に年間を通して自分の成長を見ることができる。これは、それぞれの教科書の仕掛けであるので、全ての教科書でできると考えている。

- 道徳の授業は難しく大変だが、授業の中で生徒の心を揺さぶり心の中の葛藤を揺り動かして道徳的価値について考えることが大切。道徳の授業なのか、国語の読解とも似通った授業が結構ある。本当にいい授業ができるのかという観点も必要だと思うので、研究していただけたらと思う。
- 授業の内容を示しつつも、考える部分が焦点化された一文が書かれている教科書もある。そういった仕掛けをしている教科書もあるので、その場合、指導者としては事象である部分について考えてみようという入り方をする必要がる。